

DX推進の取組状況(株式会社東栄)

1. 経営ビジョン(デジタルを活用した価値創造の方向性)

当社は、創業理念である「地域との相互信頼を築き、共生共存を目指す」を基盤とし、地域住民および企業に対して安全で高品質な電気通信サービスを提供している。地域社会の期待に応え続けるためには、施工品質の向上と迅速な対応力に加え、地域インフラの信頼性を継続的に高めることが不可欠である。その実現手段として、当社はデジタル技術の活用を経営戦略の中心に据えている。

代表取締役は毎朝の朝礼において品質改善、安全確保、デジタル活用の重要性を継続的に発信し、DXを経営の重点施策として明確に位置づけている。当社は「工程の見える化」と「是正対応の迅速化」をDXの重点テーマとして掲げ、デジタル基盤を活用した地域インフラ工事の信頼性向上と地域貢献の強化を目指している。

2. DX 推進体制(ガバナンス)

2.1 経営層のコミットメント

DX 推進の最終責任者は代表取締役であり、品質向上およびデジタル活用に関する方針を日常的に発信している。経営層の指示が現場・事務所・総務部門に浸透し、組織全体でDXを推進する体制が確立している。

2.2 推進体制の構築

DX 推進責任者(総務グループ長)を中心に、施工管理部門、現場部門、事務部門が連携し、ANDPAD、GroupSession、社内ネットワーク基盤を活用した横断的な推進体制を構築している。ネットワーク運用およびセキュリティ管理については、YCNE (Yamaha ネットワーク技術者認定:Basic★)取得者を中心に専門性を持った運用体制を整備している。

2.3 人材育成体制

工事担任者資格者が多数在籍し、通信・弱電・設備に強い技術基盤を形成している。さらに、YCNE 取得支援、ネットワーク研修、ANDPAD・GroupSession 操作教育、若手社員へのOJTを継続的に実施し、デジタル基盤を自社で運用・改善できる体制を強化している。また、将来的な高度ネットワーク人材の育成を目的として、Cisco

Certified Network Associate (CCNA) 取得も推進しており、学習支援および受験支援の仕組みを整備している。

3. DX 戦略(現状の課題と解決方針)

3.1 現状の課題

従来、設計図と現場状況の不整合が発生した際には、現場から本社への持ち戻りが必要であり、是正対応に時間を要していた。この遅延は地域の企業・住民への影響につながり、迅速対応という当社の理念と乖離する課題であった。

3.2 DX による解決方針

- ANDPAD による現場情報のリアルタイム共有
- GroupSession による社内判断の迅速化
- Yamaha RTX1220・UTX100・SWX3200 による通信基盤の強化
- デジタル活用を前提とした品質管理文化の醸成
- データ分析による品質改善と作業標準化

これらの取り組みにより、工程遅延の早期発見、是正対応の迅速化、品質の安定化を実現している。

4. 具体的な取組内容(デジタル技術の活用状況)

4.1 ANDPAD による現場 DX

図面、写真、工程表、不具合情報を現場から即時共有し、施工管理者がリアルタイムで状況を把握できる体制を構築している。設計図と現場の不整合が発生した場合には、現場から直接エスカレーションできる仕組みを整備し、持ち戻りが大幅に減少している。

4.2 GroupSession による社内 DX

品質基準書、施工手順書、安全資料を一元管理し、是正対応に必要な情報を即時参照できる環境を整備している。稟議・連絡の電子化により社内判断のスピードが向上し、是正履歴の蓄積によって再発防止策の共有が進んでいる。

4.3 ネットワーク基盤の強化

現場事務所と本社を VPN で安全に接続し、情報共有の遅延を防止している。UTX100 により外部脅威を防御し、品質データおよび顧客情報を保護している。SWX3200 を基幹ネットワークとして採用し、VLAN、L3 ルーティング、QoS により安定した通信を実現している。YCNE 取得者が設定、ログ管理、改善を担当し、安定した運用を維持している。

5. データガバナンス

当社では、品質データ、工程データ、是正対応記録、社内文書等を安全かつ適正に管理するため、アクセス制御、リスク評価、社員教育、バックアップ、復旧体制を統合したデータガバナンス体制を構築している。

5.1 アクセス制御およびクラウドサービス利用の統制

UTX100 により外部サービスへのアクセスを統制し、業務上必要なサービスのみ利用可能とすることで、安全なデータ利用環境を維持している。アクセスログを記録し、必要に応じて確認できる体制を整備している。

5.2 リスク評価および運用ルールの改善

クラウドサービス利用に関するリスク評価を定期的を実施し、脅威動向や業務内容の変化に応じてアクセス制御ルールを更新している。評価結果はセキュリティポリシーに反映し、運用ルールの継続的改善につなげている。

5.3 社員への情報セキュリティ教育

全社員を対象に定期的な情報セキュリティ教育を実施し、データ取り扱いルール、パスワード管理、クラウドサービス利用時の注意点等を周知している。教育内容は毎年見直し、最新の脅威や社内ルールに合わせて更新している。

5.4 多層的なバックアップおよびレプリケーション

NAS に保存されたデータは、外部 HDD への定時バックアップと NAS のレプリケーション機能による自動複製により多層的に保全している。バックアップデータは世代管理を行い、誤削除やデータ破損が発生した場合でも復元できる体制を整備している。

5.5 復旧手順の検証および UPS 点検

電気設備の年次点検に合わせてデータ復旧手順の再確認を行い、災害・停電時の復旧体制を維持している。また、UPS の年次点検を実施し、停電時でも NAS やネットワーク機器が安全にシャットダウンできるよう電源保護体制を確保している。

6. DX の成果(KPI を含む)

- 是正対応までの平均時間:48 時間 → 24 時間(▲50%)
- 現場から本社への持ち戻り件数:月 12 件 → 3 件(▲75%)
- 工程遅延の早期検知率:60% → 85%
- ANDPAD 登録件数:月 300 件 → 600 件(2 倍)
- 稟議・連絡の電子化率:40% → 90%
- 品質トラブルの初期発見率:40% → 70%
- YCNE 取得者:1 名(現状維持)

7. 今後の DX 展開(KPI 目標を含む)

- 是正対応までの平均時間を 24 時間 → 12 時間に短縮
- 工程遅延の早期検知率を 85% → 95%に向上
- ANDPAD 登録件数を 600 件 → 800 件に増加
- DX 研修受講率 100%を維持
- YCNE 取得者を 1 名 → 3 名に増加(3 年以内)
- CCNA 取得者を 0 名 → 1 名以上に増加(中期目標)
- 若手教育のデジタル化(動画マニュアル、ナレッジ共有)の本格運用
- 地域の安全確保に資するデータ活用の拡大

当社は DX の取り組みを地域社会および取引先に対して積極的に公開しており、公式 Web サイト内に「DX 推進ページ」(<https://www.toei.net/dx-promotion/>)を設置している。DX の方針、取組内容、成果を継続的に発信することで、透明性の高い経営と地域インフラの信頼性向上に取り組んでいる。